

## 追悼・高倉健さん

高倉健さんが亡くなった。83歳であった。好きな俳優だったので、残念でならない。最後の作品となった2012年の「あなたへ」まで205本の映画に出演した。まさに戦後を代表する「映画俳優」(健さんはこの言葉にこだわったという)の一人である。

写真は映画「あなたへ」を原案に創作された小説(幻冬舎文庫、2012年)の表紙カバーである。背筋を伸ばした健さんが印象に残る。2年ほど前に近くの劇場で映画を見たが、年齢を感じさせない表情と「味のある」演技に感動したものだ。そのときのチラシが本にはさんであった。

「北陸のある刑務所の指導技官・倉島英二のもとに、或る日、亡き妻・洋子が遺した絵手紙が届く。そこには”故郷の海を訪れ、散骨して欲しい”との思いが記されていた。妻の故郷を目指すなかで出会う多くの人々、彼らと心を通わせ、彼らの家族や夫婦の悩みや思いに触れていくうちに甦る、洋子との心温かくも何気ない日常の記憶の数々。様々な想いを胸に目的地の地に辿り着いた英二は、遺言に従い散骨する。そのとき、彼に届いた妻の本当の思いとは一。」



「幸福の黄色いハンカチ」などで監督を務めた山田洋次監督にとって、渥美清さんと高倉さんは「めぐりあった2人の偉大な俳優」だという。そして、2人は同じようにひっそりといなくなった。「いまごろ2人で話をしていらっしゃるのかな」と別れを惜しんだ(朝日新聞11月19日)。山田監督がいうように、渥美清さんも死去からしばらくして、そのニュースが流れた。渥美さんは1996年8月4日、68歳という若さで亡くなった。「寅さん」との悲しい別れの日であった。

山田監督の「幸福の黄色いハンカチ」が、映画俳優としての高倉健さんの一つの転機になったようだ。私もこのころから健さんの映画に注目するようになった気がする。北海道夕張を舞台にした名作「幸福の黄色いハンカチ」について、2006年8月22日のレポートで書いている。それと「遙かなる山の呼び声」についても、9日前の8月13日にレポートしている。これも北海道の大地を舞台にした映画であり、列車のなかの健さんと倍賞千恵子さんの最後のシーンが忘れられない。

健さんの映画でもう一つ印象に残っているのが、1999年上映の「鉄道員(ぽっぽや)」である。親父が鉄道員であり、越美南線(現在の長良川鉄道)の小さな駅の駅長を勤めたこともあり、この映画に懐かしさを感じたものだ。吹雪の北海道の小さな駅の駅長を演ずる健さんが、「出発よし」と列車を見送るシーンを思い起こす。数々のスクリーンを通して、健さんには長い間お世話になった。健さん、ありがとう。

(2014年11月20日)